

漢字は楽しくマスターできる 漢字には情報や意味が満載

小学生の子供をもつ親御さんに、「漢字」に対して、どのような感じをもっていますか。こう質問すると、「字の形が複雑で、覚えるのが難しい」「漢字の勉強は丸暗記しなくてはならないから、つまらないし、つらいものだと思う」といった否定的な答えが返ってくるのが少なくありません。

漢字の勉強は本当に、漢字ドリルに代表されるように、ひたすら反復練習するしかないのでしょうか。それは、大きな誤解です。学校でそのような教え方をしているから、そうするものだと決めてかかっているだけのことです。

漢字は、もっと楽しく学べるものです。漢字の多くは二つ以上の基本的な漢字の組み合わせで、その一つひとつに多くの情報や深い意味が込められています。漢字のもつこれらの「情報」や「意味」を手がかりに、その漢字を興味深く、楽しくマスターすることができるのです。

たとえば、「雪」という漢字を考えてみましょう。見てのとおり、“雨”と“手”とを組み合わせられています。“手”は、実は“手”の形を表した字です。雪が空からふわふわと綿のように舞い降りてきて、手の平にそっと載る光景を想像してみてください。そうです、雪という漢字は

「手に載るようになった雨」としてイメージすることでできあがったものなのです(2章・72頁参照)。とても詩的だと思いませんか。

それから、子供のころ「右」と「左」という漢字を習ったとき、同じような字形をしているのに書き順が追っているのを不思議に思ったことはありませんか。実は、これも漢字の成り立ちを知ってみると、なるほどと手を打ってしまいます。

そもそも「右」と「左」という漢字は「右手」と「左手」を表す漢字なのです。「右」は、右手の形を表した“𠂇 𠂆 𠂇”と“口”とを組み合わせたもので、「食べ物を口に運ぶ手」を意味します。一方、「左」は、左手の形を表した“𠂇 𠂆 𠂇”と、物差しを表した“工”とを組み合わせたもので、「物差しを持つ手」を意味します。

ですから、「右」と「左」では書き順も異なり、「右」が“ノナオ右”、「左」が“一ナナ左左”となります(2章・60頁参照)。

こうして、漢字一つひとつの成り立ちや意味を理解していくと、「そういうことだったのか」と合点がいきます。ひいては、初めて見る漢字でも、「こういうことかもしれない」と推察できるようにもなります。まるで“なぞなぞ遊び”でもしているような楽しさがあります。子供は、なぞなぞ遊びが大好きですから、こんなふうに漢字に接することができれば、漢字を学ぶことが楽しくなり、おのずと漢字も好きになるだろうと思います。